

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800068		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム青笹		
所在地	〒028-0503 遠野市青笹町青笹11-3-11		
自己評価作成日	令和5年11月10日	評価結果市町村受理日	令和6年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>●小中学校、保育園に囲まれた立地にあり、交流が盛んになってきている。</li> <li>●併設の小規模多機能とのレクリエーションも盛んにおこなわれ、カフェクや駄菓子レクには交代で売り子や買い手になるなどの活動が活発に行われている。</li> <li>●今年の利用者様の出来る事を探す事に力を入れ、日々の活動を多方面にわたって行ってる。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、集落の中心地に位置し、周辺には郵便局、駐在所、小中学校、保育園があり、田畑に囲まれた自然豊かな地にある。事業所には、小規模多機能ホームが併設され、行事や避難訓練の共同開催や看護師の助言、指導など、協力、支援し合い、充実した介護サービスを提供している。ホームの理念のもと、年度の目標を立て、家庭的な雰囲気の中で、利用者の残された機能を活かし、職員は利用者と一緒に支え合う共同生活者として介護サービスを提供している。運営推進会議の委員に、関係者多数を依頼し、各方面からの助言や提言を受け、業務の運営に活かしている。また、家族には機関紙の発行に加え、居室担当者、管理者、ケアマネの記載によるお知らせを作成し、利用者の生活状況を知らせ、利用者や家族の要望等を伺い、意向に沿った介護サービスを提供している。さらに、コロナ禍の状況をみながら、保育園や小中学校との交流、ボランティアの受け入れなど、地域との交流にも取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年12月4日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内ホール、リビングに掲示しいつでも確認できるようにしている。また、朝の申し送りで唱和している。 今年度は1年後にどうなりたいかという目標も掲げて取り組んでいる。	グループホームの理念のもとで職員で話し合っ年度の目標を立て、家庭的な雰囲気を大切に具体的な項目を明記し、職員会議等を通し職員で共有している。利用者と職員が共同の生活者として共に支えあい、職員と利用者が共同の生活者として、家族的な雰囲気を大切に、きめ細かな介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナで交流が切れていたが、今年に入り、地域の交流センター(わいわい館)での行事に参加したり、保育園や小中学校との交流が再開し始めている。	青笹JAの会議に職員が出席しているほか、子供食堂には利用者も参加している。保育園児による鹿々踊りの披露、小学生の施設見学、中学生の施設清掃、婦人会の窓拭き、草取りなど、コロナ禍の動向を見ながら、地域の協力を得て交流を進めている。また、かわら版を地域に配布し、事業所の活動状況をお知らせしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生や小学生の施設見学を再開し始めたばかりで、地域に向けてはまだ行っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までのような運営推進会議ではなく、幅広い家族に参加して頂けるように全利用者家族に案内し、毎回違う家族が参加し意見交換できている	今年から対面で開催し、全家族にも案内を出している。委員からは地域の行事への参加や避難訓練の方法についての提案などもあり、可能なものから順次サービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂いたり、メールや電話等で市職員とは連絡を取り合っている	事業所の近くに市の福祉関連機能を集約した「遠野健康福祉の里」があり、健康長寿課や地域包括支援センターなどに普段から相談をかけ、助言をいただいている。福祉課の地区担当員が生活保護に関する調査のため毎月来所している。事業所は市の福祉避難所に指定され、災害発生時に高齢者や障がい者などを受け入れすることとしている。防災情報は、市設置の情報端末により入手している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画にも身体拘束を取り入れている。また、担当部会がおおむね3カ月に1回の会議を開催し、必要に応じてスピーチロックなどのチェックや研修をしている。	身体拘束廃止に関する指針があり、小規模多機能ホームと合同で身体拘束に関する委員会を3カ月に1回開催し、事業所から3人の職員が参加している。職員アンケートを実施し、各職員の振り返りによる共通の課題などを取り上げ、日々の業務に活かしている。玄関の施錠は夜間のみで、転倒予防、離床確認のため、センサーマット、赤外線感知器を一部活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いなど気になることがあった際は、ヒヤリハットを提出し会議などで注意喚起している。また、防犯カメラなども活用している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在自立支援を受けている利用者様がいるが、状況を見ながら成年後見人制度の活用など話し合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回の契約時や契約書の変更があった場合は面談にて説明しているが、遠方のご家族には電話での説明後郵送している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の言葉を会話形式で記録し、ご家族からは面会時や電話連絡の際に意見など聞き取りして、直ぐに反映出来る事は会議等で話し合っている。また、事業所単位で出来ない事は、本社に報告している	家族からは面会などで来所した際に意見を伺い、利用者には、表情や動作から判断して声掛けしながら意向の把握に努めている。家族は行事などの活動をしてほしい、利用者は運動をしたい、洗濯物をたたみたいとの希望が多い。家族には機関紙「あお空通信」や居室担当者、管理者、ケアマネが記載した利用者ごとの「お知らせ」を届けている。	

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や職員会議、フロア会議など活用し意見交換したり、情報共有し運営に活かす努力をしている。最近では意見箱なども活用し、小さなことも見過ごさないようにしている	毎月の職員会議や各委員会での検討、提案を受け、夏祭りや中学生の受け入れ、歩行器などの導入、ベッドの交換、センサーマットの活用など、業務の改善や備品の購入等に活かしている。また、職員の資格取得の支援、研修への参加や勤務体制の柔軟な対応などにも対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社役員は訪問や電話などで管理者と話す機会を設け、管理者は些細なことでも話すようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に申し込み参加出来るようシフト調整している。 施設内研修も、取り入れたりオンライン研修も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年に入り、小規模・グループホーム協会の集まりがあり参加し、コロナ禍で大変であった事など情報交換している		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時はなかなか聞けないこともあるが、ケース記録に利用者様の言葉を会話形式で記録することで思いを知り、職員間で情報共有し、本人の意向やご家族の意向に寄り添えるよう努力し取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時はなかなか聞けなかったことも、訪問診療等の報告だけでなく、必要物品の補充など職員から連絡し、近況なども伝えるようにしながらご家族の話も聞くようにしている。その他、毎月、月まとめをお送りし日々の様子を伝えている。		

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時は本当にグループホームが適しているのか見極めたり、幸いなことに小規模多機能やサ高住も併設しているので、ご本人や家族に良いと思う支援は伝えるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームを一つの家族と捉え、お互いに出る事を協力して行えるような関係づくりをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、月まとめを送付し利用者様の様子を伝えている。受診等の対応も協力していただき、ご家族とご本人の関係を断ち切ることのないよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ほとんどの方が長期で入居しているので、新たな馴染みの関係が、地域の床屋であったり小規模多機能の利用者であったりし、定期的な交流を出来るようにしている	小規模多機能ホーム利用者との交流、行事の共同開催のほか、今年初めて受け入れた紙粘土づくりのボランティアが利用者とは既知の間柄であり以前の関係を大切にしている。また、地区の敬老会に利用者が余興で参加し、舞踊を披露している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士の座席配慮したりしている。 そうした上で、9名ほとんどの利用者様が関わられるように同じ時間を過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになってからのサービス終了の事が殆どであるが、その後もボランティアで来て下さるご家族もいる。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に利用者様の言葉を会話形式で記録に残したり、ケア会議で情報共有している。	ほとんどの利用者は要介護度がまだ低いとコミュニケーションが可能であり、希望や意向を聞き取って職員がケース記録に会話形式で具体的に残し、共有している。希望は、工作や積み木、塗り絵など手先を使うレクリエーションに関するものが多い。	
----	-----	--	---	---	--

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から聞き取り及び入居前のフェイスシートなどから情報を得たり、利用者様との会話から読み取る工夫をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の会話や身体状況など記録し、気づきを基にケア会議などで情報共有しケア内容を確認している。また、出来るを作ると言う今年の目標がある為、以前より一人一人の状態を見ている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な関係者が集まったの会議は出来ていないが、施設内では会議やミーティングなどで家族等の情報を元に話し合いを持つようにしている。また、専属のケアマネも配置されたことで現状を良く見れるようになってきている	短期3ヵ月、長期6ヵ月ごとに介護計画の見直しを行なっている。毎月職員によるカンファレンスやリーダー、ケアマネ、管理者によるアセスメントを経て作成している。作成に際して小規模多機能ホームの看護師や主治医の意見を取り入れている。新しい計画はケアマネが家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、会話形式で記録するようにし、ケアの統一を図れるようケア会議で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専属のケアマネがいる事で、すぐに問題などがあれば話し合う事も出来、柔軟に対応できている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ここ数年、コロナ禍で地域との交流や外出もできていないが、併設施設の小規模多機能が地域資源となりお互いに交流している		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9名中4名が訪問診療を受け、5名はご家族様対応にて受診している。受診時には日々様子をメモにしご家族様からDrへ報告してもらっている。本人の希望があれば歯科受診にもお連れしている。	利用者9人のうち4人は、かかりつけ医の訪問診療を受診している。他の5人は家族が付き添って受診し、医療機関が市内の場合は職員が同行することもある。受診時には家族に医師への連絡表(生活状況、バイタルチェック、薬の残など)を提供している。受診後は家族に報告し、個別に記録をファイルしている。整形、精神、皮膚、眼科などの特別科も同様である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との連携は図れている。訪問診療や受診についても看護職が率先して対応してくれ、薬の管理も徹底している。緊急時の連絡体制も整えており、夜間についても電話にて指示を出してくれたり、駆けつけてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供や様子など電話ではあるが振るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化及び看取り介護に関する指針の説明は行っている。ご家族様の意向は状況に応じ何度も聞き取りし支援している。	重度化した場合(看取り)の指針を作成し、入居時に対応について説明し、同意を得ている。重度化した場合は、改めて家族に説明し、医療機関や関係施設への移送など、家族の意向を確認することとしている。過去に施設内での看取り経験はあるが、実際に経験した職員は少なくなっている。AEDは設置、訓練を受講している。	突然死や重度化した場合の対応と終末期の介護サービスについて、経験者や看護師を講師とした勉強会や研修会を実施し、知識や技術の修得に向けた、取り組みを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	小規模多機能の看護師が中心になり、研修を行っている		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難経路の確認や方法を身につける努力をしている。	1階の小規模多機能ホームと合同で年2回の通報・消火・避難訓練を実施し、うち1回は夜間を想定している。火災の場合は、火元から離れた経路を選び、階段を使用して避難することとしている。避難場所は5分程度の地区センターを想定しているが、大雨の場合は2階に留まることとしている。市のハザードマップでは浸水や土砂災害警戒区域とはなっていない。数名の地域の方の協力を得ている。食料5日分のほかカセットコンロや電池式ストーブなどを備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックや権利擁護の研修も取り入れ、利用者様の尊厳を損なわないようケアすることを心掛けている。言葉かけや対応に問題が見られたときはヒヤリハットを提出することで注意喚起している。	個人情報、個別にファイルし、事務室で保管している。バイタルチェック表も同様である。かわら版、通信への写真掲載は、家族の同意を得ている。入浴や排泄など、異性介助の問題は特に無い。失敗した場合は、本人の心情を大切に誘導し、交換、清拭、シャワーなどで対応している。居室への入室は声かけ、ノックを励行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認しながら思いを実現出来る支援を心掛けてる。入浴日であっても入浴の気分であれば調整したり工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出することを拒否する方もいらっしゃる。利用者様のペースに合わせ、歌いたいときは歌う、踊りたいときは踊るなど、利用者様がやりたいことをしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の意見を尊重しながら、季節に見合った服装を提案したり、衣替えの時は、ご家族にも協力してもらっている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後、洗った食器を拭いてもらったり、テーブルを拭いたり出来る事を職員と行っている。野菜や柿の皮むきなども職員と一種に行っている	メニューは、本部の栄養士が作成し、選択した冷凍食品が委託先から配送される。特別食、昼食は職員が手作りしている。おやつは買物のほか、ホットケーキ、ふかし芋、饅頭など、季節や利用者の好みに応じて提供している。行事で夏祭り、敬老会、花見、クリスマス、誕生日の行事などには、特別メニューとしている。運動会には秋刀魚焼きを提供した。外出の際には、道の駅、ファミリーレストランで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄チェック表を活用し、食事摂取量、水分量を把握し排泄や身体状況などの観察をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の出来るところまでは見守りで行い、その後足りない部分の介助を行っている。利用者様に応じ、舌ブラシなども使用している。夕食後に義歯を洗浄剤に浸け管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導の他に、個々の排泄パターンに合わせ誘導している。自立されている方も、汚染確認は行っている。	排泄チェック表により、動向を把握し、個別に案内、誘導している。自立者は1名で、他は見守り、ズボンの上げ下げ、ふき取りなどで対応している。全員がリハビリパンツ、パットを併用している。夜間のポータブルトイレの利用者は1名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を確認し適宜水分補給に努めている。本人に腹部のマッサージを促したり、廊下を歩くなどの運動、座っていても出来る運動など体を動かすことを心掛けて促している。また、夕食にヨーグルトを毎日提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を設定し対応しているが、気分が優れない、体調不良など確認した際は時間変更や曜日変更など調整している。入浴拒否される利用者様(男性1名)には、毎日夕食後に入浴を促し、本人の希望があれば入浴してもらっている。	1日に3人ずつ最低週2回の入浴とし時間帯は夜6時から8時としているが、利用者の状況によって適宜調整している。機械浴槽はないが、必要な場合は小規模多機能ホームの設備を使用している。入浴を嫌がる方には、清拭、シャワーで対応している。入浴剤や菖蒲湯、ゆず湯を提供している。利用者は歌や世間話でくつろいでいる。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に居室を行き来し、休みたい利用者様は自由に休んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイリングし、いつでもすぐに確認できる状態にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常会話から好きな物や事柄など見つけ、利用者様が生き生きと笑顔で会話ができるようコミュニケーションの取り方を工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近くの保育園付近まで散歩したり、出来る範囲でドライブしたりしている。帰宅願望のある利用者様も気分転換で外にお連れしている。	天気の良い日は近くの保育園まで散歩するほか、春は花見、秋は紅葉狩りに附馬牛、笛吹峠や仙人峠など近郊をドライブして季節の風景を楽しんでいる。少人数でも小規模多機能ホームの利用者と一緒にドライブすることもある。利用者は、菜園での植え付け、収穫も行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所の金庫預かりの方がほとんどである。1名個人で財布を持っているが、受診時家族の見守りの基で、自分で支払いしている。散髪の際も職員の見守りの基、支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話することはないが、職員がご家族に用事があり電話した際に本人と会話させることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、リビングと分け配慮している。季節や行事ごとに装飾も工夫している。	温度は、エアコン、加湿器、サーキュレーター(感染症対策)で管理している。室内は、大型の窓から光が入り、白と木調で明るく、ソファ、食事用テーブル、大型のテレビ、生花、鉢物がある。季節の飾り(クリスマス)のほか、壁には活動写真、手作りの作品(塗り絵、折り紙)などが貼られ、居心地のよい環境となっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際や、日常の座席など利用者様の関係性をみながら配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類や小物など着慣れた物や使い馴染みのある物を持ってきてもらって入るが、なかなか自宅のような馴染んだ空間にはなっていない	暖房はエアコンで管理され、ベッド、クローゼット、テレビ端子、ナースコールが設置されている。衣装ケース、冷蔵庫、ラジオが持ち込まれ、家族写真、手作りの作品で壁が飾られている。利用者の意向に沿った配置となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今年の目標が出来る事を作るという目標なので、個々の利用者様を良く観察し、職員がサポートしながら安全に自立した生活を送れるようにしている		